

灰星病で枯れた枝は開花期までに剪除して、園内に残さないことが重要です。

3月上旬～3月下旬

○かいよう病 コサイド 3000 硬核期まで 2,000 倍 50g／水 100 パル

(薬害軽減のためクレフノン 200 倍 500 g／水 100 パルを加用する)

3月中旬～3月下旬

○アブラムシ類 スミチオン乳剤 収穫 14 日前 2回 2,000 倍 50ml／水 100 パル 又は
チエス顆粒水和剤 収穫 21 日前 2回 5,000 倍 20g／水 100 パル

○灰色かび病・黒星病 ベルクートフロアブル 収穫 30 日前 3回 2,000 倍 50g／水 100 パル

※ 適期は落弁期（花びらの 80%が散った時期）であるが品種により開花時期が異なるので状態に合わせて散布しましょう。

—【か き】—

病害虫防除

○ヒメコスカシバ 幼虫の生息場所をなくすため、粗皮削りを行いましょう。特に太い枝の分岐部は重点的に削りましょう。

※ 特に伊豆早生は被害を受けやすいため発生に注意しましょう。

※ 越冬病害虫、樹幹害虫は荒皮削り以外にも耕種的防除（落葉、枝などの園外廃棄）を行うと防除効果が高いです。

※ スカシバ類多発園では開花期までにフェニックスフロアブル（開花期まで 200 倍 1 回 500ml/100 パル）主幹部及び主枝に散布する。粗皮を剥いで処理すると効果的です。

整枝剪定 2月末までは終了しましょう。

樹形は開心自然形が基本になります。主枝 3 本を理想とし、低樹高化に取り組みましょう。

柿は昨年発生した枝の先 2～3 芽から出た新梢に花をつけますので、枝の先端は切り返しをせずに切り戻し剪定を心掛け、主枝・亜主枝の近くに、30～50 cm 每に充実した結果母枝を配置していきます。

—【キウイフルーツ】*下線が引いてあるものは重要防除です。必ず防除を行いましょう。—

病害虫防除 3月中旬（発芽前）

○かいよう病 IC ボルドー-66D 収穫後～発芽前 50 倍 2,000g／水 100 パル

○キウイヒメヨコバイ アグロスリン乳剤（劇） 収穫 7 日前 3 回 2,000 倍 50ml／水 100 パル

剪 定

剪定が終了していない園は、速やかに剪定を終わらせましょう。

—【お 茶】—

整 枝 3月中旬（寒害がなくなるころ）

秋整枝をしていない園では、摘採面を揃えるため浅く整枝しましょう。

秋整枝をした園で、遅れ芽や立ち葉が出ている園では再整枝（化粧ならし）をしましょう。

※再整枝の目的は 1 番茶の品質低下防止です。ごく浅く整枝しましょう。深刈りは減収につながります。

施 肥 施肥の前に敷き藁・敷き草等をよけておきましょう。

春肥は、一番茶の芽の生育と品質に効果があり、茶樹はこの時期に平均温度が 10℃以上になると根が動き始めて、樹体内の養分の転流が始まります。

分肥（2回に分ける）土と混和させると肥効が高まります。

2月下旬 足柄茶配合 033 3 袋/10a 3月中旬に足柄茶配合 033 2 袋/10a を 1 回ずつ施肥しましょう。

定 植 3月

新植及び改植する場合は 3 月に行います。3 月の定植に合わせ 2 月に定植準備をしましょう。